

基礎Ⅱ研修生における急変時の対応について考える

A study of an emergency situation for A basicⅡ trainee

高度救命救急センター ○飯ヶ浜実

要旨

卒後2年目である基礎Ⅱ研修生へ救急の知識・不安をアンケート調査し、また研修アドバイザーにも研修生に求められる急変時の対応を調査した。その結果、研修生は急変に対する危機意識を抱いており、急変時対応の研修への期待が高かった。アドバイザーへの調査では基礎的な急変時のABCの習得が挙げられた。これにより基礎Ⅱ研修生への急変時対応の研修について方向性が明らかとなり、今後の研修計画の参考となった。

キーワード：急変 卒後研修 急変時のABC

I. はじめに

急変時の対応は、頻繁に経験するものではなく、突然の出来事であるため看護師経験が豊富な者でも適切な対応は難しい。まして臨床経験の浅い看護師には急変は精神的にも負担である。今回、基礎Ⅱ研修生・アドバイザーにアンケートをとり、2年目看護師として急変時の対応のあり方・今後の研修計画について考えたので報告する。

II. 研究方法

1. 対象： A病院基礎Ⅱ研修生(以下、研修生)44名 研修生アドバイザー23名にアンケートを配布
2. 調査日： 研修生：2007.9.6・10 アドバイザー：2007.9.3
3. 方法： 研修生の急変時における現状と、アドバイザーが研修生に求める急変時の役割を比較
4. 倫理的配慮： 研修生へのアンケートは自記式質問調査用紙と数値データで集計し個人が特定できないよう配慮した。アドバイザーへのアンケート調査では、自記式質問調査用紙を使用し個人が特定される情報は省いた。

III. 研究結果

研修生へのアンケート結果

部署の救急カートの場所が分かる(100%)

救急カートの物品チェックの経験がある（97%）

急変時の対応経験がある（70%）

部署での急変時についての勉強会に出席（46%）

自記式質問における「急変時の対応で学びたい事は」について、下記の回答が大多数を占めた

- ・ 基礎的なことが知りたい
- ・ 急変時の流れを確認したい
- ・ 医師が来るまでにできることを学びたい
- ・ 一連の急変時の流れを実際に練習したい

アドバイザーへの自記式質問の結果は、「2年目である研修生に何が求められるか」の問いに、下記の回答が得られた

- ・ 急変であることが判る
- ・ 急変時その場を離れず人を呼べる
- ・ ABC 対応・救急物品が分かる
- ・ 先輩 NS の指示・指導に従い行動ができる

IV. 考察

救急カート・物品チェックなどハード面については各部署にて指導を受けている事がわかる。研修生の多くが既に急変事例に直面している。その急変での経験により対応の難しさや不安を抱いていると考えられ、今後の課題として挙げられている。

一方、アドバイザーのアンケート結果によると急変時に研修生に求められるのは、応援者を呼び、急変初期の適切な対応方法と引継ぎである。臨床経験の浅い研修生は必然的に急変の経験も少なく、急変時にできる事は限られている。異常に気づき、助けを求め、応援者が到着するまでの急変時の ABC をできることが求められている。

以上により、急変患者の発見～急変時の ABC、応援者への引き継ぎまでを根拠に基づいて説明する事で、研修生の急変に対する不安を軽減でき、部署で求められる行動がとれると考えられる。

V. 結論

1. 研修生は急変に対する危機意識があり、現段階でできる事を再確認し身に付けたいと考えている。
2. 発見から急変時の対応・引継ぎまでを、根拠を交えた急変時の対応研修として組み入れることにより、研修生の不安を軽減でき、各部署での期待されている役割を担える。